

| | | | |
|-----------------------|----------|-----------------|---------------|
| 基本事業コード | 03010001 | 担当課所名 | 財政課 |
| 基本事業名 財政運営事務事業 | | | |
| 総合振興計画 | 分野 | 7 行財政運営 | |
| | 政策 | 2 財政運営 | |
| | 施策 | 1 健全な財政運営・FMの推進 | |
| | | | 総合振興計画 67 ページ |

基本事業の概要
 中期財政計画を踏まえて各担当課からの予算要求を査定し、適正な予算を編成するとともに、適切な予算執行に努めるよう管理していく。また、財政健全化計画を着実に実行していくため、庁内全体に周知、徹底し、健全な市財政を堅持していく。

対象 市財政及び市職員
意図 (対象をどのようにしたいか) 適切な予算執行に努め、健全な市財政を堅持する

| 基本事業指標 | 指標の算式 | 種類 単位 | 5年度 | 評価年度(6年度) | | 8年度 | 他団体の指標(数値) |
|--------|-------------|-----------|--------|-----------|------|-----|------------|
| | | | 過年度実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | |
| 経常収支比率 | 評価年度の決算統計数値 | 成果指標 % | 88.3 | 85 | 88.7 | 85 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

| 枝番号 | 事務事業名 | 指 標 | | | 目標値(上段) | 種類 単位 | 事務事業評価 8年度以降の 事業の方向性 コスト:成果 | 重点化 |
|-----|--------------------|------------------------|-----------|-----------|-----------|-------------|--------------------------------------|-----|
| | | 事業費(円) | | | 実績値(下段) | | | |
| | | 5年度決算額 | 6年度決算額 | 7年度予算額 | | | | |
| 01 | - 予算編成・管理事務 | 指標:普通会計決算の形式収支 | 1,925,151 | 1,485,909 | 5,377,000 | 1,781,979 | 成果指標 B | ◎ |
| | | | | | 2,609,981 | 千円 | 維持:拡充 | |
| 02 | 財政健全化推進事務 | 指標:財政調整基金比率 | 0 | 0 | 0 | 10~20% | 成果指標 B | |
| | | | | | 0 | % | 維持:拡充 | |
| 03 | 地方債借入れ事務 | 指標:地方債の交付税措置率(一般債+臨財債) | 0 | 0 | 0 | 70%以上 | 成果指標 A | |
| | | | | | 0 | % | 維持:維持 | |
| 04 | 他会計繰出し事務 | 指標:基準外及び赤字繰出金額 | 0 | 0 | 0 | 900,000千円以内 | 成果指標 B | ○ |
| | | | | | 0 | 千円 | 維持:拡充 | |
| 05 | 地域提案(ふるさと創造資金)補助事業 | 指標:年度内事業完了率 | 0 | 0 | 0 | 100 | 活動指標 A | |
| | | | | | 0 | % | 維持:維持 | |
| 06 | | 指標: | | | | | | |
| 07 | | 指標: | | | | | | |
| 08 | | 指標: | | | | | | |
| 09 | | 指標: | | | | | | |
| 10 | | 指標: | | | | | | |
| 11 | | 指標: | | | | | | |
| 12 | | 指標: | | | | | | |
| 13 | | 指標: | | | | | | |
| 14 | | 指標: | | | | | | |

| | | | |
|--------------------------|---------|------------|------------|
| (参考) 最終予算額(円) | | 1,967,000 | 2,088,000 |
| 事業費の合計(円) (A) | | 1,925,151 | 1,485,909 |
| 財源内訳 | 国庫支出金 | | |
| | 県支出金 | | |
| | 地方債 | | |
| | その他特定財源 | | |
| | 一般財源 | 1,925,151 | 1,485,909 |
| 正規職員 | 業務量 | 4.60人 | 5.00人 |
| | 人件費(B) | 27,075,641 | 30,691,855 |
| 会計年度任用職員(事業費に含む) | 業務量 | | |
| | 人件費 | | |
| 事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B) | | 29,000,792 | 32,177,764 |

【重点化欄】
 評価時点以降の事業の方向性から
 ◎:特に重点化必要事業(1つ以内)
 ○:重点化必要事業(1つ以内)
 △:劣後化可能事業(1つ以内)
 ▲:特に劣後化可能事業(1つ以内)

| | | | | | | |
|-----------|-----|----|---|-----|-----|----|
| 成果の方向性 | 拡充 | × | × | C,B | B,C | C |
| | 維持 | × | × | B | A | × |
| | 縮小 | × | × | C | × | × |
| | 休廃止 | × | D | × | × | × |
| | 完了 | D | × | × | × | × |
| 完了 | | 皆減 | | 縮小 | 維持 | 拡大 |
| コスト投入の方向性 | | | | | | |

◆評価◆

| | |
|-------------------|--|
| 評価の視点 | 左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 |
| 基本事業指標の分析 | 基本事業の「意図」を適切に数値化した指標になっているか？目標値の設定は適切か？また、実績値をどう考えるか？ この事業は、市全体の健全な財政運営を目的とするものであり、財政課だけの努力で達成できるものではない。これまで「財政健全化計画」を推進し、経常収支比率85%を達成するため、全庁的に取り組んだ結果、県内市町村や類似団体の平均値と比較して良好な状況を保っている。今後も継続して経常経費の削減と歳入確保を全庁的に取り組んでいく。経常収支比率は、財政健全化計画に基づく経費削減及び財源確保を実施した結果を示す指標のひとつであり、全職員が取り組みやすく意識啓発につながるものとする。 |
| 基本事業を構成する事務事業の妥当性 | 基本事業の「意図」を達成するため、事務事業は必要な事業のみか？（過不足がある場合は、改善提案に記載する。） 経常収支比率の指標の達成は、普通交付税や臨時財政対策債の依存財源等の要因によるところも大きいですが、財政健全化計画に基づき全庁的な経費削減と財源確保を図る必要がある。 そのためには、予算編成・管理をはじめ、基金残高の確保、地方債残高の減少、繰出金の適正化などを行う必要があり、事務事業の設定は適正と考える。 |
| 実施主体の妥当性 | 事業に対する民間（市民、企業、NPO）との役割分担や市の関与の仕方は適切か？ 財政運営については、市が責任を持って行うべきであり、妥当であると考えます。 |

↓ Action

◆改善提案◆

| 新規に実施する事務事業名 | 事業の概要 | |
|--|--|--|
| | | |
| <p>表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、◎、○、△、▲を選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述</p> <p>当市では、歳出総額の圧縮を目的として枠配分方式での予算編成を行っており、令和6年度予算編成においても枠配分方式で実施し、厳しい財源状況の中でも予算編成を行うことができた。しかしながら、物価高騰対応や公共施設の適正管理など将来を見据えて解決しなければならない問題が山積しており、財政状況は一層厳しさを増していきと予想している。今後も歳入確保、歳出削減を行いつつ予算編成を行っていくためには、その手法について分析・検証を行うことが重要であると考えており、枠配分方式を継続する場合は改善の余地はあるのか、従来の一件査定方式に戻す方が削減効果が大きいのかなど、検討を重ねていき、有効な予算編成方法を確立していく必要がある。</p> | | |
| 改善のため休廃止する事務事業名 | 休廃止する理由 | |
| | | |
| 改善の方向性(具体的な改善提案)を記述(改善内容、始期、終期等) | | 5年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) |
| 予算を伴わない短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 令和7年度予算は枠配分方式により予算編成を行ったが、人件費の増加、物価高騰による経常経費の増加など、過去最大の予算額となった。適正な予算規模による健全な財政運営を図るため、事務事業の見直しを主体的に進めていく。 | 令和6年度予算は枠配分方式により予算編成を行ったが、人件費の増加、物価高騰による経常経費の増加など、予算総額が膨らむことが懸念されるため、この方式の是非を検証しつつ、適正な予算編成に努める。 財政健全化推進本部に諮った結果、枠配分方式による予算編成が継続されたが、予算総額が増加傾向にあるため、事業の見直しを図るよう各部署に協力を求めた。 |
| 予算を伴う短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 地方債の借入については、金利が上昇する傾向であることから、民間資金は利率の見直しがない10年以内の償還期間を設定していく。また、地方債残高を減らしていくために償還における据置期間を見直し、その結果、当初予算では見込めなかった元金償還が発生した場合は補正予算で対応する。 | 地方債の借入については、金利が上昇する傾向であることから、民間資金は利率の見直しがない10年以内の償還期間を設定していく。また、地方債残高を減らしていくために償還における据置期間を見直し、その結果、当初予算では見込めなかった元金償還が発生した場合は補正予算で対応する。 地方債の借入時に据置期間の見直しを行い、元金の償還開始時期を早めた。また、当初予算で見込めなかった元金償還は補正予算で対応した。 |
| 中長期的(3~5年)に取り組む改善提案 | 「第4次財政健全化計画」、「中期財政計画」に基づき、自主財源の確保、経常経費の削減、予算編成手法の工夫と事務事業の見直し、業務改革の推進、市債の抑制と基金の活用を図っていくことにより、財政健全化を推進していく。 | 「第4次財政健全化計画」、「中期財政計画」に基づき、自主財源の確保、経常経費の削減、予算編成手法の工夫と事務事業の見直し、業務改革の推進、市債の抑制と基金の活用を図っていくことにより、財政健全化を推進していく。 令和6年度においても「第4次財政健全化計画」、最新の指標を反映させた「中期財政計画」で掲げた課題に対する取組を推進していくことにより、健全な財政運営の堅持に努めた。 |
| 6-1-(3) 行政のデジタル化 | デジタル化導入数 | 件数 0 |
| | 7-1-(1) 事務及び人事の効率化・適正化 | 件数 0 |
| <p>改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー</p> <p>今後の収入減少に備えて、歳出削減と歳入確保の両面から取り組んでいるが、方策として事業縮小や施設の統廃合、使用料の値上げなどが予想され、住民や議会へ説明し、理解を得ることが不可欠となる。市の財政状況を分かりやすく伝え、理解を得られるよう努める。</p> | | |

| | | |
|----------------------|------|----------------------|
| 基本事業執行責任者 (担当課長名) | 菅沼 勉 | 電話番号 0494-22-2203 |
|----------------------|------|----------------------|

| | | | |
|-----------------------|----------|-------|---------------|
| 基本事業コード | 03010002 | 担当課所名 | 財政課 |
| 基本事業名 ふるさと納税事業 | | | |
| 総合振興計画 | 分野 | 7 | 行財政運営 |
| | 政策 | 2 | 財政運営 |
| | 施策 | 1 | 健全な財政運営・FMの推進 |
| | | | 総合振興計画 67 ページ |

| | |
|---------|--|
| 基本事業の概要 | ふるさと納税に関する事務を外部委託し、インターネット等により積極的なPRを行う。併せて、特典として地場産品や体験型の返礼品を寄附者に提供し、寄附額の増額を図る。 |
|---------|--|

| | |
|----------------------|--------------------------|
| 対象 | ふるさと納税寄附者及びふるさと納税に関心がある人 |
| 意図 (対象をどのようにしたいか) | 財源の確保と地域経済の活性化を図る |

| 基本事業指標 | 指標の算式 | 種類 単位 | 5年度 | 評価年度(6年度) | | 8年度 | 他団体の指標(数値) |
|-----------|-------|------------|---------|-----------|---------|---------|------------|
| | | | 過年度実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | |
| ふるさと納税寄附額 | | 成果指標 千円 | 195,467 | 500,000 | 211,947 | 300,000 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

| 枝番号 | 事務事業名 | 指 標 | | | 目標値(上段) | 種類 単位 | 事務事業評価 8年度以降の 事業の方向性 コスト:成果 | 重点化 |
|--------------------------|----------|-------------|-------------|------------|---------|----------|--------------------------------------|-----|
| | | 5年度決算額 | 6年度決算額 | 7年度予算額 | 実績値(下段) | | | |
| 01 | ふるさと納税事業 | 指標:返礼品数 | | | 300 | 成果指標 | B | |
| | | 98,137,524 | 92,216,311 | 96,000,000 | 341 | 数 | 維持:拡充 | |
| 02 | | 指標: | | | | | | |
| 03 | | 指標: | | | | | | |
| 04 | | 指標: | | | | | | |
| 05 | | 指標: | | | | | | |
| 06 | | 指標: | | | | | | |
| 07 | | 指標: | | | | | | |
| 08 | | 指標: | | | | | | |
| 09 | | 指標: | | | | | | |
| 10 | | 指標: | | | | | | |
| 11 | | 指標: | | | | | | |
| 12 | | 指標: | | | | | | |
| 13 | | 指標: | | | | | | |
| 14 | | 指標: | | | | | | |
| (参考) 最終予算額(円) | | 100,000,000 | 107,500,000 | | | | | |
| 事業費の合計(円) (A) | | 98,137,524 | 92,216,311 | 96,000,000 | | | | |
| 財源内訳 | 国庫支出金 | | | | | | | |
| | 県支出金 | | | | | | | |
| | 地方債 | | | | | | | |
| | その他特定財源 | | | | | | | |
| | 一般財源 | 98,137,524 | 92,216,311 | 96,000,000 | | | | |
| 正規職員 | 業務量 | 0.40人 | 1.00人 | | | | | |
| | 人件費(B) | 2,354,404 | 6,138,371 | | | | | |
| 会計年度任用職員 (事業費に含む) | 業務量 | | | | | | | |
| | 人件費 | | | | | | | |
| 事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B) | | 100,491,928 | 98,354,682 | | | | | |

【重点化欄】
評価時点以降の事業の方向性から
◎:特に重点化必要事業(1つ以内)
○:重点化必要事業(1つ以内)
△:劣後化可能事業(1つ以内)
▲:特に劣後化可能事業(1つ以内)

| | | | | | | |
|--------|-----|--------------------------|---|-----|-----|---|
| 成果の方向性 | 拡充 | × | × | C,B | B,C | C |
| | 維持 | × | × | B | A | × |
| | 縮小 | × | × | C | × | × |
| | 休廃止 | × | D | × | × | × |
| | 完了 | D | × | × | × | × |
| 完了 | | 皆減 縮小 維持 拡大 コスト投入の方向性 | | | | |

◆評価◆

| | |
|-------------------|--|
| 評価の視点 | 左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 |
| 基本事業指標の分析 | 基本事業の「意図」を適切に数値化した指標になっているか？目標値の設定は適切か？また、実績値をどう考えるか？ この事業では寄附額が数値目標として最も適している。 令和6年度の実績値は目標値を大きく下回ったので、令和7年度以降は目標値の下方修正を行った。それでも実績値からすると高い目標値であることに変わりはないので、返礼品の掘り起こしを強化し、秩父市のふるさと納税に関心をもってもらえるようPRを行うなど、寄附額増額に向けた取組を進めていく。 |
| 基本事業を構成する事務事業の妥当性 | 基本事業の「意図」を達成するため、事務事業は必要な事業のみか？（過不足がある場合は、改善提案に記載する。） 基本事業に対し構成する事務事業が1つであり、必要な事業のみとなっている。 また、この基本事業は独立した内容となっており、ほかの基本事業と統合するのは妥当ではないと考える。 |
| 実施主体の妥当性 | 事業に対する民間（市民、企業、NPO）との役割分担や市の関与の仕方は適切か？ ふるさと納税は地方公共団体への寄附制度であることから適切である。 |

↓ Action

◆改善提案◆

| 新規に実施する事務事業名 | 事業の概要 | |
|--|--|---|
| | | |
| 表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、◎、○、△、▲を選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 | | |
| | | |
| 改善のため休廃止する事務事業名 | 休廃止する理由 | |
| | | |
| 改善の方向性(具体的な改善提案)を記述(改善内容、始期、終期等) | | |
| 予算を伴わない短期的(1~2年)に取り組み改善提案 | 返礼品を大幅に増やしたことにより、寄附額が前年度から増額となった。引き続き、新たな返礼品の掘り起こしを強化するとともに、体験型の返礼品を増やし、またチョイスPayの加盟店を増やすことにより、多方面から秩父市のふるさと納税に関心をもってもらうようPRを行う。 | 5年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) 返礼品として多くの寄附をいただいていた商品の出荷ができなかったため、大幅な寄附額の減少となった。そのため、新たな返礼品の掘り起こしを強化するとともに、体験型の返礼品を増やし、またチョイスPayの加盟店を増やすことにより、多方面から秩父市のふるさと納税に関心をもってもらうようPRを行う。 返礼品の開拓を進め、新規で164品目を追加することができた。その中で、体験型の返礼品は16品目増加し、チョイスPayの加盟店は、26店舗増加した。大幅に返礼品が増えたことにより、秩父市のふるさと納税に関心をもってもらうきっかけを作ることができた。 |
| 予算を伴う短期的(1~2年)に取り組み改善提案 | ふるさと納税については返礼品の調達額は寄附額の総額の3割以下、経費の総額は5割以下とするの基準が総務省で示されていることから、手数料、広告料やふるさと納税事務をはじめとする業務委託について見直しを図る。 | ふるさと納税については返礼品の調達額は寄附額の総額の3割以下、経費の総額は5割以下とするの基準が総務省で示されていることから、手数料、広告料やふるさと納税事務をはじめとする業務委託について見直しを図る。 ふるさと納税の業務については、令和5年度までは市外の業者に委託していたが、令和6年度は地元業者と契約を締結した。業務の内容についても適宜見直しを図っていく。 |
| 中長期的(3~5年)に取り組み改善提案 | 返礼品については「モノ」消費にとどまらず、「コト」消費である体験型にも力を入れることによって観光誘客を促進し、「モノ」「コト」両面から地域経済の活性化を図る。また、幅広い返礼品を通して、秩父市の魅力を伝えていく。 | 返礼品については「モノ」消費にとどまらず、「コト」消費である体験型にも力を入れることによって観光誘客を促進し、「モノ」「コト」両面から地域経済の活性化を図る。また、幅広い返礼品を通して、秩父市の魅力を伝えていく。 ふるさと納税サイト等を通して、秩父の魅力をPRした。また、雑誌にPR広告を掲載したり、ニュースレターを作成したりするなど、広報活動にも力を入れた。 |
| 行政改革大綱推進項目 | | |
| 6-1-(3) 行政のデジタル化 | デジタル化導入数 | 件数 7-1-(1) 事務及び人事の効率化・適正化 |
| | 0 | 件数 PPP・PFI・包括外部委託等導入数 0 |
| 改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー | | |
| ふるさと納税事業に関する経費の見直しを図ることにより、更なる財源の確保、寄附金の有効活用を見込むことができる。また、地元事業者から広く特典調達をすることで地域経済の活性化が期待できる。 | | |

| | | |
|----------------------|------|----------------------|
| 基本事業執行責任者 (担当課長名) | 菅沼 勉 | 電話番号 0494-22-2203 |
|----------------------|------|----------------------|

| | | | |
|--------------------------------|----------|-------|---------------|
| 基本事業コード | 03020001 | 担当課所名 | FM推進課 |
| 基本事業名 公共インフラ資産等マネジメント事業 | | | |
| 総合振興計画 | 分野 | 7 | 行財政運営 |
| | 政策 | 2 | 財政運営 |
| | 施策 | 1 | 健全な財政運営・FMの推進 |
| | | | 総合振興計画 67 ページ |

基本事業の概要
「公共施設等総合管理計画」を実行する。
この計画に基づき、施設所管課所と協力しながら、適正な公共施設の「量」や「質」等について検討し、削減床面積の数値目標の達成を実現させる。

対象 公共施設
意図 適正配置する
(対象をどのようにしたいか)

| 基本事業指標 | 指標の算式 | 種類 単位 | 5年度 | 評価年度(6年度) | | 8年度 | 他団体の指標(数値) |
|----------------------|-------|-----------|--------|-----------|--------|-------|------------|
| | | | 過年度実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | |
| 公共施設(一般会計)の削減延べ床面積累計 | | 成果指標 ㎡ | 8,358 | 6,800 | 10,474 | 9,200 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

| 枝番号 | 事務事業名 | 指 標 | | | 目標値(上段) | 種類 | 事務事業評価 8年度以降の 事業の方向性 コスト:成果 | 重点化 | |
|-----|----------------------|--------------|---------|---------|---------|----|--------------------------------------|-----|---|
| | | 事業費(円) | | | 実績値(下段) | | | | |
| | | 5年度決算額 | 6年度決算額 | 7年度予算額 | | 単位 | | | |
| 01 | 公共施設ファシリティマネジメント啓発事業 | 指標:啓発回数 | 24,816 | 20,484 | 247,000 | 随時 | 活動指標 | A | |
| 02 | 公共施設等総合管理計画推進事業 | 指標:FM推進会議の開催 | 500,103 | 525,650 | 902,000 | 随時 | 活動指標 | A | ◎ |
| 03 | | 指標: | | | | | | | |
| 04 | | 指標: | | | | | | | |
| 05 | | 指標: | | | | | | | |
| 06 | | 指標: | | | | | | | |
| 07 | | 指標: | | | | | | | |
| 08 | | 指標: | | | | | | | |
| 09 | | 指標: | | | | | | | |
| 10 | | 指標: | | | | | | | |
| 11 | | 指標: | | | | | | | |
| 12 | | 指標: | | | | | | | |
| 13 | | 指標: | | | | | | | |
| 14 | | 指標: | | | | | | | |

| | | | | |
|--------------------------|---------|------------|------------|-----------|
| (参考) 最終予算額(円) | | 1,137,000 | 1,128,000 | |
| 事業費の合計(円) (A) | | 524,919 | 546,134 | 1,149,000 |
| 財源内訳 | 国庫支出金 | | | |
| | 県支出金 | | | |
| | 地方債 | | | |
| | その他特定財源 | | | |
| | 一般財源 | 524,919 | 546,134 | 1,149,000 |
| 正規職員 | 業務量 | 4.00人 | 3.00人 | |
| | 人件費(B) | 23,544,036 | 18,415,113 | |
| 会計年度任用職員(事業費に含む) | 業務量 | | | |
| | 人件費 | | | |
| 事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B) | | 24,068,955 | 18,961,247 | |

【重点化欄】
評価時点以降の事業の方向性から
◎:特に重点化必要事業(1つ以内)
○:重点化必要事業(1つ以内)
△:劣後化可能事業(1つ以内)
▲:特に劣後化可能事業(1つ以内)

| | | | | | | |
|-----------|-----|----|---|-----|-----|----|
| 成果の方向性 | 拡充 | × | × | C,B | B,C | C |
| | 維持 | × | × | B | A | × |
| | 縮小 | × | × | C | × | × |
| | 休廃止 | × | D | × | × | × |
| | 完了 | D | × | × | × | × |
| 完了 | | 皆減 | | 縮小 | 維持 | 拡大 |
| コスト投入の方向性 | | | | | | |

◆評価◆

| | |
|-------------------|--|
| 評価の視点 | 左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 |
| 基本事業指標の分析 | 基本事業の「意図」を適切に数値化した指標になっているか？目標値の設定は適切か？また、実績値をどう考えるか？ 公共施設(一般会計ハコモノ)の削減延べ床面積累計については、公共施設等総合管理計画の目標数値として一般会計の公共施設の延べ床面積を35%縮減することを掲げており着実に達成出来るように、目標値を設定し、令和6年度は目標値を達成した。 |
| 基本事業を構成する事務事業の妥当性 | 基本事業の「意図」を達成するため、事務事業は必要な事業のみか？(過不足がある場合は、改善提案に記載する。) 職員、市民向けのファシリティマネジメントの啓発事業と公共施設等総合管理計画を推進する事業であり、妥当である。 |
| 実施主体の妥当性 | 事業に対する民間(市民、企業、NPO)との役割分担や市の関与の仕方は適切か？ 市有施設が対象であるため市が実施主体である。 |

↓ Action

◆改善提案◆

| 新規に実施する事務事業名 | 事業の概要 | | | | | | | |
|---|----------------------------------|---|----|------------------------|----|---|--|---|
| | | | | | | | | |
| <p>表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、◎、○、△、▲を選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 公共施設等総合管理計画の推進は、国からも要請されていることであり、財政健全化をするための一つの手段である。個別施設計画の策定、これに伴う公共施設等総合管理計画の改訂も行ったため、公共施設等総合管理計画推進事業は、公共施設等総合管理計画及び個別施設計画計画の実行、進捗管理等をする段階になる。</p> | | | | | | | | |
| 改善のため休廃止する事務事業名 | 休廃止する理由 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 改善の方向性(具体的な改善提案)を記述(改善内容、始期、終期等) | | 5年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) | | | | | | |
| 予算を伴わない短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 今後の老朽化対策の状況を検証し、個別施設計画の見直しを検討する。 | <p>現地調査や施設ヒアリング等の結果に基づく施設の方向性の変更案を作成する。「公共施設等総合管理計画」並びに「個別施設計画」の次期計画案の作成に向けてさらなる準備を進めていく。</p> <p>個別施設計画の改訂を完了した。</p> <p style="text-align: right;">改善状況 ○</p> | | | | | | |
| 予算を伴う短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | | <p style="text-align: right;">改善状況</p> | | | | | | |
| 中長期的(3~5年)に取り組む改善提案 | | | | | | | | |
| 行政改革大綱推進項目 | | | | | | | | |
| 6-1-(3) 行政のデジタル化 | デジタル化導入数 | <table border="1"> <tr> <td>件数</td> <td>7-1-(1) 事務及び人事の効率化・適正化</td> <td>件数</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> </tr> </table> | 件数 | 7-1-(1) 事務及び人事の効率化・適正化 | 件数 | 0 | | 0 |
| 件数 | 7-1-(1) 事務及び人事の効率化・適正化 | 件数 | | | | | | |
| 0 | | 0 | | | | | | |
| <p>改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー 公共施設等総合管理計画の主旨を踏まえた公共施設の老朽化対策を実施し、安全性の確保や次世代に負担を残さない効率的な公共施設の施設配置ができる。</p> | | | | | | | | |

| | | |
|----------------------|-------|----------------------|
| 基本事業執行責任者 (担当課長名) | 江野 純夫 | 電話番号 0494-26-1131 |
|----------------------|-------|----------------------|

| | | | |
|---------------------|----------|-------|---------------|
| 基本事業コード | 03030001 | 担当課所名 | 管財課 |
| 基本事業名 財産管理事業 | | | |
| 総合振興計画 | 分野 | 7 | 行財政運営 |
| | 政策 | 2 | 財政運営 |
| | 施策 | 1 | 健全な財政運営・FMの推進 |
| | | | 総合振興計画 67 ページ |

基本事業の概要 市有財産(土地・建物)の適正な維持管理を行うとともに、将来的に利活用が見込まれない所管建物については計画的に解体等を実施し、土地の有効活用並びに維持管理費の削減を図っていく。普通財産土地については積極的に売却し、市の財源確保に努めていく。

対象 土地及び建物
意図 (対象をどのようにしたいか) 台帳管理、境界確認、測量、処分等を実施し、常に適正な状態を保つとともに有効活用を図っていく。

| 基本事業指標 | 指標の算式 | 種類 単位 | 5年度 | 評価年度(6年度) | | 8年度 | 他団体の指標(数値) |
|------------|-------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|------------|
| | | | 過年度実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | |
| 土地の処分件数 | | 成果指標 件 | 1 | 3 | 1 | 3 | |
| 土地の処分金額 | | 成果指標 円 | 6,460,000 | 30,000,000 | 1,140,000 | 30,000,000 | |
| 不使用建物の解体件数 | | 成果指標 件 | 0 | 1 | 0 | 1 | |

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

| 枝番号 | 事務事業名 | 指 標 | | | 目標値(上段) | 種類 単位 | 事務事業評価 8年度以降の 事業の方向性・ コスト・成果 | 重点化 |
|--------------------------|----------------------|--------------------|---------------------|---------------------|---------|----------|---------------------------------------|-----|
| | | 事業費(円) | | | 実績値(下段) | | | |
| | | 5年度決算額 | 6年度決算額 | 7年度予算額 | | | | |
| 01 | 土地建物維持管理事業 | 指標:除草、高木伐採作業等の実施回数 | | | | 活動指標 | A | |
| | | 74,985,926 | 53,337,826 | 56,754,000 | 12 | 回 | 維持:維持 | |
| 02 | 財産取得処分事業 | 指標:土地の処分件数 | | | | 成果指標 | B | ○ |
| | | 2,211,261 | 1,647,501 | 3,204,000 | 1 | 件 | 維持:拡充 | |
| 03 | | 指標: | | | | | | |
| 04 | | 指標: | | | | | | |
| 05 | | 指標: | | | | | | |
| 06 | | 指標: | | | | | | |
| 07 | | 指標: | | | | | | |
| 08 | | 指標: | | | | | | |
| 09 | | 指標: | | | | | | |
| 10 | | 指標: | | | | | | |
| 11 | | 指標: | | | | | | |
| 12 | | 指標: | | | | | | |
| 13 | | 指標: | | | | | | |
| 14 | 土地建物維持管理事業【~5年度(繰越)】 | 指標: | | | | | | |
| | | 656,728 | | | | | | |
| (参考)最終予算額(円) | | 82,101,000 | 58,579,000 | | | | | |
| 事業費の合計(円) (A) | | 77,853,915 | 54,985,327 | 59,958,000 | | | | |
| 財源内訳 | 国庫支出金 | | | | | | | |
| | 県支出金 | | | | | | | |
| | 地方債 | | | | | | | |
| | その他特定財 | | | | | | | |
| | 一般財源 | 77,853,915 | 54,985,327 | 59,958,000 | | | | |
| | 正規職員 | 業務量 人件費(B) | 3.30人 19,423,830 | 3.75人 23,018,891 | | | | |
| | 会計年度任用職員 (事業費に含む) | 業務量 人件費 | | | | | | |
| 事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B) | | 97,277,745 | 78,004,218 | | | | | |

【重点化欄】
 評価時点以降の事業の方向性から
 ◎:特に重点化必要事業(1つ以内)
 ○:重点化必要事業(1つ以内)
 △:劣後化可能事業(1つ以内)
 ▲:特に劣後化可能事業(1つ以内)

| 成果の方向性 | コスト投入の方向性 | | | | |
|--------|-----------|----|----|----|----|
| | 拡充 | 維持 | 縮小 | 休止 | 完了 |
| 完了 | × | × | × | × | × |
| 皆減 | × | × | × | × | × |
| 縮小 | × | × | × | × | × |
| 維持 | × | × | × | × | × |
| 拡大 | × | × | × | × | × |

◆評価◆

| | |
|-------------------|--|
| 評価の視点 | 左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 |
| 基本事業指標の分析 | 基本事業の「意図」を適切に数値化した指標になっているか？目標値の設定は適切か？また、実績値をどう考えるか？ 現在活用していない市有財産(土地・建物)の有効活用や財源を確保するための指標である。土地の処分件数、金額の目標値の設定については、その土地の取引相手や面積、評価額に左右されることが多く難しい面が多いが、令和6年度については1件の土地処分が行えた。土地処分件数・処分金額・解体件数は、想定していた処分候補地が代替地になるなどしたため、目標を達成することが出来なかった。 |
| 基本事業を構成する事務事業の妥当性 | 基本事業の「意図」を達成するため、事務事業は必要な事業のみか？(過不足がある場合は、改善提案に記載する。) 市有財産(土地・建物)の適正な維持管理を行うための基本事業を構成する事務事業であり、妥当である。 |
| 実施主体の妥当性 | 事業に対する民間(市民、企業、NPO)との役割分担や市の関与の仕方は適切か？ 当課が所管する市有財産(土地・建物)の維持管理を行うための事業であるため、実施主体が市であることは妥当である。 |

↓ Action

◆改善提案◆

| 新規に実施する事務事業名 | 事業の概要 | |
|--|---|---|
| | | |
| <p>表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、◎、○、△、▲を選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 財政の健全運営のためには歳入を増やし、歳出を減らす必要がある。また、将来的に利用が見込まれない土地は、ファシリティマネジメントの観点から、売却等を行い財源の確保を進める必要がある。財産管理事業では、利用されていない建物の解体や不要となった土地の売却を進めていくことにより、土地建物の維持管理にかかるコストの削減を図るとともに、土地売却による財源の確保に取り組むことが重要となることから、財産処分事業を重点化事業とした。</p> | | |
| 改善のため休廃止する事務事業名 | 休廃止する理由 | |
| | | |
| 改善の方向性(具体的な改善提案)を記述(改善内容、始期、終期等) | | 5年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) |
| 予算を伴わない短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 販売を行っている土地については、インターネットを活用して広く周知を行い、販売促進を図る。 | 販売を行っている土地については、インターネットを活用して広く周知を行い、販売促進を図る。 インターネットを活用して販売促進を図ったが、令和6年度に購入の申し込みは無かった。 改善状況 × |
| 予算を伴う短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 利活用の見込みのない土地について、測量や鑑定等を行い、売却ができるように整備する。また、売却地にのぼり旗を設置して販売促進を図る。 | 利活用の見込みのない土地について、測量や鑑定等を行い、売却ができるように整備する。また、売却地にのぼり旗を設置して販売促進を図る。 日野田町地内の土地を売却できた。 改善状況 ○ |
| 中長期的(3~5年)に取り組む改善提案 | 市有施設の統廃合に伴う建物解体後、市において借用する必要がなくなった民有地については、地権者への説明を行いながら時期を見て返還し、土地借り上げ料の削減を図る。 | 市有施設の統廃合に伴う建物解体後、市において借用する必要がなくなった民有地については、地権者への説明を行いながら時期を見て返還し、土地借り上げ料の削減を図る。 今年度は借地の返還がなかったため、土地借り上げ料の削減を行うことができなかった。 |
| 行政改革大綱推進項目 | | |
| 6-1-(3) 行政のデジタル化 | デジタル化導入数 | 件数 0 |
| | 7-1-(1) 事務及び人事の効率化・適正化 | 件数 0 |
| PPP・PFI・包括外部委託等導入数 | | |
| 改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー | | |
| <p>所管する土地については活用の見込みがない土地であっても、適正な維持管理を行うために年数回の草刈り等を行う必要がある。市で活用の見込みのない土地の売却を行うことにより、草刈り等の土地の維持管理に係るランニングコスト及び職員の労力の削減が見込める。また、土地の有効活用が行われることで、雑草の繁茂等を防ぐことにつながり、近隣住民の生活環境の向上が見込める。</p> | | |

| | | |
|----------------------|-------|----------------------|
| 基本事業執行責任者 (担当課長名) | 磯田 欣央 | 電話番号 0494-22-2208 |
|----------------------|-------|----------------------|

| | | | |
|----------------------|----------|--------------------|--------------|
| 基本事業コード | 03030002 | 担当課所名 | 管財課 |
| 基本事業名 本庁舎管理事業 | | | |
| 総合振興計画 | 分野 | 7 行財政運営 | |
| | 政策 | 2 財政運営 | |
| | 施策 | - (内部管理・市の裁量の無い事務) | |
| | | | 総合振興計画 - ページ |

| | |
|---------|---|
| 基本事業の概要 | 市役所本庁舎・市民会館・歴史文化伝承館における秩序維持、公務の円滑化、来庁者の利便性向上のために、建物の適正な管理を行う。 |
|---------|---|

| | |
|----------------------|--|
| 対象 | 職員、来庁者 |
| 意図 (対象をどのようにしたいか) | 公務の円滑化並びに利便性の向上に努め、安全を確保するとともに、維持管理に係る業務を委託する。 |

| 基本事業指標 | 指標の算式 | 種類 単位 | 5年度 | 評価年度(6年度) | | 8年度 | 他団体の指標(数値) |
|--------------|-------|-----------|--------|-----------|-----|-----|------------|
| | | | 過年度実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | |
| 本庁舎内における事故件数 | | 成果指標 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

| 枝番号 | 事務事業名 | 指標 | | | 種類 単位 | 事務事業評価 8年度以降の 事業の方向性・ コスト・成果 | 重点化 |
|-----|-----------|-----------|-------------|-------------|----------|---------------------------------------|--------------------|
| | | 5年度決算額 | 6年度決算額 | 7年度予算額 | | | |
| 01 | 本庁舎維持管理事業 | 指標:電気使用量 | 170,823,040 | 156,836,930 | 177,027 | 1,461,648 1,465,553 | 成果指標 B 維持:拡充 |
| 02 | 本庁舎整備事業 | 指標:改修工事件数 | 506,880 | 107,800 | 1,000 | 3 | 成果指標 A 維持:維持 |
| 03 | | 指標: | | | | | |
| 04 | | 指標: | | | | | |
| 05 | | 指標: | | | | | |
| 06 | | 指標: | | | | | |
| 07 | | 指標: | | | | | |
| 08 | | 指標: | | | | | |
| 09 | | 指標: | | | | | |
| 10 | | 指標: | | | | | |
| 11 | | 指標: | | | | | |
| 12 | | 指標: | | | | | |
| 13 | | 指標: | | | | | |
| 14 | | 指標: | | | | | |

| | | | |
|--------------------------|---------|-------------|-------------|
| (参考) 最終予算額(円) | | 183,717,000 | 169,337,000 |
| 事業費の合計(円) (A) | | 171,329,920 | 156,944,730 |
| 財源内訳 | 国庫支出金 | | |
| | 県支出金 | | |
| | 地方債 | | |
| | その他特定財源 | | |
| | 一般財源 | 171,329,920 | 156,944,730 |
| | 178,027 | | |
| 正規職員 | 業務量 | 1.80人 | 2.01人 |
| | 人件費(B) | 10,594,816 | 12,338,126 |
| 会計年度任用職員 (事業費に含む) | 業務量 | | |
| | 人件費 | | |
| 事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B) | | 181,924,736 | 169,282,856 |

【重点化欄】
評価時点以降の事業の方向性から
◎:特に重点化必要事業(1つ以内)
○:重点化必要事業(1つ以内)
△:劣後化可能事業(1つ以内)
▲:特に劣後化可能事業(1つ以内)

| | | | | | | |
|--------|-----|--------------------------|---|-----|-----|---|
| 成果の方向性 | 拡充 | × | × | C,B | B,C | C |
| | 維持 | × | × | B | A | × |
| | 縮小 | × | × | C | × | × |
| | 休廃止 | × | D | × | × | × |
| | 完了 | D | × | × | × | × |
| 完了 | | 皆減 縮小 維持 拡大 コスト投入の方向性 | | | | |

◆評価◆

| | |
|-------------------|--|
| 評価の視点 | 左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 |
| 基本事業指標の分析 | 基本事業の「意図」を適切に数値化した指標になっているか？目標値の設定は適切か？また、実績値をどう考えるか？ 本庁舎・市民会館・歴史文化伝承館の建物及び構内駐車場と管理対象が広範囲である中で、適正に管理し、事故を未然に防ぐための安全対策は、日常において実施しなければならない必須事業であることから、「意図」に対して適切な基本事業指標である。 電気使用量については、建物や施設を適正に管理していく上での指標として適切である。節電を呼びかけ、電気使用量の削減に努めたい。 |
| 基本事業を構成する事務事業の妥当性 | 基本事業の「意図」を達成するため、事務事業は必要な事業のみか？（過不足がある場合は、改善提案に記載する。） 庁舎及び構内の利便性の向上や、安心安全を図るために基本事業を構成する事務事業であり、妥当である。 |
| 実施主体の妥当性 | 事業に対する民間（市民、企業、NPO）との役割分担や市の関与の仕方は適切か？ 庁舎の安心安全を確保するためには、専門的な知識や技術が必要となるので、電気設備、機械設備及び建物維持管理等の専門業者に委託することが妥当である。 |

↓ Action

◆改善提案◆

| 新規に実施する事務事業名 | 事業の概要 | |
|--|---|--|
| | | |
| 表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、◎、○、△、▲を選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 | | |
| | | |
| 改善のため休廃止する事務事業名 | 休廃止する理由 | |
| | | |
| 改善の方向性(具体的な改善提案)を記述(改善内容、始期、終期等) | 5年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) | |
| 予算を伴わない短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 庁舎及び構内について、人事異動により担当職員に変更が生じたとしても、常に設備等の設置場所及び機能について把握し、発生事案に対し迅速に対応できるようにする。 | 庁舎及び構内について、人事異動により担当職員に変更が生じたとしても、常に設備等の設置場所及び機能について把握し、発生事案に対し迅速に対応できるようにする。 常に複数人に対応し、情報共有を図りながら、担当職員に変更が生じても対応できるようにした。 |
| 予算を伴う短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 庁舎及び構内について、利用者の利便性の向上・安心安全を安定して提供するため、必要に応じ予算要求を行い、整備等を実施していく。また、歴史文化伝承館は、建設後22年が経過し秩父市個別施設計画に基づく中規模改修を行うための改修が必要な箇所の調査を行い、整備計画を検討する。 | 庁舎及び構内について、利用者の利便性の向上・安心安全を安定して提供するため、必要に応じ予算要求を行い、整備等を実施していく。 施設の利用方法や管理について、何か問題があれば、その都度、生涯学習課や市民会館と協議・検討を行った。その結果、必要に応じて予算要求を行い、整備等を実施した。 |
| 中長期的(3~5年)に取り組む改善提案 | 庁舎及び構内を長寿命で使用し続けるために、短期的に取り組む改善で実施する整備計画を基に中規模改修工事を実施する。 | 庁舎及び構内を長寿命で使用し続けるために、保守点検結果等を基に整備計画を検討する。 毎月報告されてくる保守点検結果を基に施設の現況を把握した。 |
| 行政改革大綱推進項目 | | |
| 6-1-(3) 行政のデジタル化 | デジタル化導入数 | 件数 7-1-(1) 事務及び人事の効率化・適正化 |
| | 0 | PPP・PFI・包括外部委託等導入数 |
| | | 件数 0 |
| 改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー | | |
| 庁舎及び構内について、設備等の設置場所及び機能について把握することで、平常時または緊急時の発生事案に対し迅速に対応することができ、来庁者や職員に対し安全な利用環境を提供することができる。また、整備を実施していくことで、利用者の利便性を向上することができる。 | | |

| | | |
|----------------------|-------|----------------------|
| 基本事業執行責任者 (担当課長名) | 磯田 欣央 | 電話番号 0494-22-2208 |
|----------------------|-------|----------------------|

| | | | |
|----------------------|----------|-------|------------------|
| 基本事業コード | 03030003 | 担当課所名 | 管財課 |
| 基本事業名 公用車管理事業 | | | |
| 総合振興計画 | 分野 | 7 | 行財政運営 |
| | 政策 | 2 | 財政運営 |
| | 施策 | - | (内部管理・市の裁量の無い事務) |
| | | | 総合振興計画 - ページ |

| | |
|---------|---|
| 基本事業の概要 | 公用車の適正管理の下、良好な車両状態を維持することにより職員の安全を確保するとともに安全運転の励行を徹底する。 |
|---------|---|

| | |
|----------------------|--|
| 対象 | 公用車・職員 |
| 意図 (対象をどのようにしたいか) | 適正管理による良好な車両状態の維持及び安全運転の励行による交通事故の減少を図る。 |

| 基本事業指標 | 指標の算式 | 種類 単位 | 5年度 | 評価年度(6年度) | | 8年度 | 他団体の指標(数値) |
|------------|----------|-----------|--------|-----------|-----|-----|------------|
| | | | 過年度実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | |
| 公用車の入替え | 車両入替台数 | 成果指標 台 | 0 | 3 | 3 | 1 | |
| 公用車の事故発生件数 | 過失事故発生件数 | 成果指標 件 | 11 | 0 | 14 | 0 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

| 枝番号 | 事務事業名 | 指 標 | | | 目標値(上段) | 種類 単位 | 事務事業評価 8年度以降の 事業の方向性 コスト:成果 | 重点化 |
|--------------------------|----------------------|-----------------|------------|------------|------------|----------|--------------------------------------|------------|
| | | 事業費(円) | | | 実績値(下段) | | | |
| | | 5年度決算額 | 6年度決算額 | 7年度予算額 | | | | |
| 01 | 公用車維持管理事業 | 指標:法定点検実施率 | 17,013,629 | 18,085,133 | 21,601,000 | 100 | 成果指標 % | A 維持:維持 |
| 02 | 公用車取得事業 | 指標:公用車購入及びリース台数 | 2,476,200 | 2,521,270 | 6,683,000 | 3 | 成果指標 台 | C 拡大:拡充 |
| 03 | | 指標: | | | | | | |
| 04 | | 指標: | | | | | | |
| 05 | | 指標: | | | | | | |
| 06 | | 指標: | | | | | | |
| 07 | | 指標: | | | | | | |
| 08 | | 指標: | | | | | | |
| 09 | | 指標: | | | | | | |
| 10 | | 指標: | | | | | | |
| 11 | | 指標: | | | | | | |
| 12 | | 指標: | | | | | | |
| 13 | | 指標: | | | | | | |
| 14 | | 指標: | | | | | | |
| (参考) 最終予算額(円) | | 24,837,000 | 22,850,000 | | | | | |
| 事業費の合計(円) (A) | | 19,489,829 | 20,606,403 | 28,284,000 | | | | |
| 財源内訳 | 国庫支出金 | | | | | | | |
| | 県支出金 | | | | | | | |
| | 地方債 | | | | | | | |
| | その他特定財 | | | | | | | |
| | 一般財源 | 19,489,829 | 20,606,403 | 28,284,000 | | | | |
| | 正規職員 | 業務量 1.50人 | 1.21人 | | | | | |
| | 人件費(B) | 8,829,014 | 7,427,429 | | | | | |
| | 会計年度任用職員 (事業費に含む) | 業務量 | | | | | | |
| | 人件費 | | | | | | | |
| 事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B) | | 28,318,843 | 28,033,832 | | | | | |

【重点化欄】
評価時点以降の事業の方向性から
◎:特に重点化必要事業(1つ以内)
○:重点化必要事業(1つ以内)
△:劣後化可能事業(1つ以内)
▲:特に劣後化可能事業(1つ以内)

| | | | | | | | |
|--------|----|----|----|----|-----|-----------|---|
| 成果の方向性 | 完了 | D | x | x | C,B | B,C | C |
| | 完了 | D | x | x | C | x | x |
| | 完了 | D | x | x | C | x | x |
| | 完了 | D | x | x | C | x | x |
| | 完了 | D | x | x | C | x | x |
| 完了 | | 皆減 | 縮小 | 維持 | 拡大 | コスト投入の方向性 | |

◆評価◆

| | |
|-------------------|---|
| 評価の視点 | 左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 |
| 基本事業指標の分析 | 基本事業の「意図」を適切に数値化した指標になっているか？目標値の設定は適切か？また、実績値をどう考えるか？ 公用車を管理していく上では、車両の安全性及び運転者の安全意識を高め、交通事故の防止に努めることは当然である。また、適正な車両台数を維持することで、公務の円滑化・効率化を図れることから指標は意図に対して適切である。職員の過失事故発生件数は前年度に比べ3件増加し、14件もの過失事故が発生したため、職員の安全意識を更に高めていく必要がある。 |
| 基本事業を構成する事務事業の妥当性 | 基本事業の「意図」を達成するため、事務事業は必要な事業のみか？（過不足がある場合は、改善提案に記載する。） 公用車を適正に管理し職員の安全を確保していく上では、常に車両の良好な状態を維持していくことは必要不可欠であり、そのために構成している公用車維持管理事業及び公用車取得事業の設定は妥当である。 |
| 実施主体の妥当性 | 事業に対する民間（市民、企業、NPO）との役割分担や市の関与の仕方は適切か？ 計画的な車両の点検・整備の実施による車両の管理と運転者による安全運転の励行は、車両所有者の当然の義務であるため、市が行うことは妥当である。 |

↓ Action

◆改善提案◆

| 新規に実施する事務事業名 | 事業の概要 | |
|--|--|---|
| | | |
| 表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、◎、○、△、▲を選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 | | |
| | | |
| 改善のため休廃止する事務事業名 | 休廃止する理由 | |
| | | |
| 改善の方向性(具体的な改善提案)を記述(改善内容、始期、終期等) | | 5年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) |
| 予算を伴わない 短期的(1~2年)に 取り組む改善提案 | 交通事故発生件数を減少させるため、「職員交通安全講習会」を定期的に行い、より効果的な事故防止対策を実施する。また、交通事故を起こした職員に対し、講習会への参加などの確なアフターフォローを実施していただくよう所属長に促し、交通事故の再発防止に努める。 | 交通事故発生件数減少のため、「職員交通安全講習会」を定期的に行い、より効果的な事故防止対策を実施する。また、交通事故を起こした職員に対し、的確なアフターフォローを実施していただくよう所属長に促し、交通事故の再発防止に努める。 「職員交通安全講習会」を計画どおり実施し、アフターフォローも実施した。しかし、職員の過失事故件数については前年度より3件増加してしました。 |
| | | 改善状況 △ |
| 予算を伴う 短期的(1~2年)に 取り組む改善提案 | 共用車両1台について、車両の老朽化による不具合が発生しているため、令和7年度に入替を実施する予定である。購入する車両については、電気自動車又はハイブリット自動車を選定し、環境への配慮に努める。 | 共用車両1台について、車両の老朽化による不具合が発生しているため、令和7年度に入替を実施する予定である。購入する車両については、電気自動車又はハイブリット自動車を選定し、環境への配慮に努める。 令和7年度購入予定。 |
| | | 改善状況 × |
| 中長期的(3~5年)に 取り組む改善提案 | 電気自動車等のエコカー導入率を上昇させるため、公用車所管各課と協議のうえ、エコカーに入替え可能な車両を選定していく。 | 電気自動車等のエコカー導入率を上昇させるため、公用車所管各課と協議のうえ、エコカーに入替え可能な車両を選定していく。 令和7年度において充電スタンド整備(環境課事業)を計画している。これと連動し電気自動車の増車を行う予定。 |
| | | |
| 6-1-(3) 行政のデジタル化 | デジタル化導入数 | 件数 0 |
| | 7-1-(1) 事務及び人事の効率化・適正化 | 件数 0 |
| PPP・PFI・包括外部委託等導入数 | | |
| 改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー | | |
| 職員の不注意や車両の故障が原因で交通事故が起きた場合、市に対する信用の失墜に直結するため、これを防止することは市としての責務である。そのためには、適切な車両管理のほか、職員に対して安全運転に関する注意喚起や啓発活動を継続していくことが必要であり、その取り組みを率先して実施する姿勢を強調していくことで、市民の交通安全意識の向上にも繋がることが期待できる。また、電気自動車等の増車を行うことで、環境負荷の低減に努める。 | | |

| | | |
|----------------------|-------|----------------------|
| 基本事業執行責任者 (担当課長名) | 磯田 欣央 | 電話番号 0494-22-2208 |
|----------------------|-------|----------------------|

| | | | |
|---------------|-----------|-------|---------------|
| 基本事業コード | 03040001 | 担当課所名 | 市民税課 |
| 基本事業名 | 市民税等賦課事務費 | | |
| 総合振興計画 | 分野 | 7 | 行財政運営 |
| | 政策 | 2 | 財政運営 |
| | 施策 | 1 | 健全な財政運営・FMの推進 |
| 総合振興計画 67 ページ | | | |

基本事業の概要
個人市民税、法人市民税、軽自動車税、市たばこ税、鉱産税、入湯税の適正な課税処理を行い、誤りのない納税通知書及び所得課税証明書等を発行する。

対象
市民税等の納税義務者

意図
(対象をどのようにしたいか)
納税者の利便性向上を図り、税務行政を効率化するとともに、適正かつ公正な賦課を実施する。

| 基本事業指標 | 指標の算式 | 種類 単位 | 5年度 | 評価年度(6年度) | | 8年度 | 他団体の指標(数値) |
|------------------|------------------|-----------|--------|-----------|--------|--------|------------|
| | | | 過年度実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | |
| 電子申告(エルタックス)利用件数 | | 成果指標 件 | 56,072 | 57,000 | 56,904 | 58,000 | |
| 未申告者の2次申告率 | 2次申告者数÷未申告者案内通知数 | 成果指標 % | 26 | 30 | 23.5 | 36 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

| 枝番号 | 事務事業名 | 指標 | | | 目標値(上段) | 種類 単位 | 事務事業評価 8年度以降の 事業の方向性 コスト:成果 | 重点化 | |
|-----|-------------------------|--------------------|------------|------------|------------|----------|--------------------------------------|-------|---|
| | | 5年度決算額 | 6年度決算額 | 7年度予算額 | 実績値(下段) | | | | |
| 01 | - 市民税等課税処理業務 | 指標:納税義務者数 | 22,192,646 | 17,577,519 | 19,480,000 | 54,824 | 人 | 維持:維持 | |
| 02 | - 市民税等還付金処理業務 | 指標:還付対象者数 | 21,286,002 | 27,122,376 | 25,000,000 | 344 | 人 | 維持:維持 | |
| 03 | 税務職員研修事務 | 指標:各種研修会出席者(延べ)数 | 14,698 | 23,522 | 46,000 | 40 | 人 | 維持:拡充 | ○ |
| 04 | - 所得課税証明等発行事務 | 指標:所得課税証明等発行数 | 44,000 | 6,333,938 | 3,734,000 | 5,070 | 枚 | 維持:拡充 | |
| 05 | - 各種協議会等負担金 | 指標:会議出席回数 | 3,994,870 | 5,709,694 | 7,926,000 | 13 | 回 | 拡大:拡充 | ◎ |
| 06 | - 市たばこ税、鉱産税及び入湯税の申告受付事務 | 指標:納税義務者及び特別徴収義務者数 | 0 | 0 | 0 | 20 | 件 | 維持:維持 | |
| 07 | - 個人事業者の登録台帳整備事務 | 指標:個人営業証明発行件数 | 0 | 0 | 0 | 2 | 件 | 維持:維持 | |
| 08 | | 指標: | | | | | | | |
| 09 | | 指標: | | | | | | | |
| 10 | | 指標: | | | | | | | |
| 11 | | 指標: | | | | | | | |
| 12 | | 指標: | | | | | | | |
| 13 | | 指標: | | | | | | | |
| 14 | | 指標: | | | | | | | |

(参考) 最終予算額(円) 52,702,000 61,140,000

事業費の合計(円) (A) 47,532,216 56,767,049 56,186,000

| | | | | |
|------|---------|------------|------------|------------|
| 財源内訳 | 国庫支出金 | | | |
| | 県支出金 | | | |
| | 地方債 | | | |
| | その他特定財源 | | | |
| | 一般財源 | 47,532,216 | 56,503,613 | 56,186,000 |

| | | | |
|----------------------|--------|------------|------------|
| 正規職員 | 業務量 | 9.88人 | 10.59人 |
| | 人件費(B) | 58,153,769 | 65,005,349 |
| 会計年度任用職員 (事業費に含む) | 業務量 | 1.28人 | 0.28人 |
| | 人件費 | 3,165,082 | 612,281 |

事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B) 105,685,985 121,772,398

【重点化欄】

評価時点以降の事業の方向性から
◎:特に重点化必要事業(1つ以内)
○:重点化必要事業(1つ以内)
△:劣後化可能事業(1つ以内)
▲:特に劣後化可能事業(1つ以内)

| | | | | | | |
|--------|-----|-----------|----|-----|-----|---|
| 成果の方向性 | 拡充 | x | x | C,B | B,C | C |
| | 維持 | x | x | B | A | x |
| | 縮小 | x | x | C | x | x |
| | 休廃止 | x | D | x | x | x |
| | 完了 | D | x | x | x | x |
| | 完了 | 皆減 | 縮小 | 維持 | 拡大 | |
| | | コスト投入の方向性 | | | | |

◆評価◆

| | |
|-------------------|---|
| 評価の視点 | 左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 |
| 基本事業指標の分析 | 基本事業の「意図」を適切に数値化した指標になっているか？目標値の設定は適切か？また、実績値をどう考えるか？ 電子申告「エルタックス」を使った申告手続きにより、納税者の利便性向上と事務の効率化に努めている。その一方で、電子と紙が混在することで事務が煩雑になっているが、基幹システムが全国的に標準化され本年12月から運用されることで改善されるものとする。引き続き、エルタックスを活用した各税申告の利用促進を図っていくとともに、事務の効率化を進めていく。未申告者の2次申告率については、実績値が前年度実績値と目標値を下回った。未申告・不申告者への申告指導、広報の仕方を見直し、公平・公正な課税を行っていく。 |
| 基本事業を構成する事務事業の妥当性 | 基本事業の「意図」を達成するため、事務事業は必要な事業のみか？（過不足がある場合は、改善提案に記載する。） 法令に基づき実施している事業であり、妥当である。 |
| 実施主体の妥当性 | 事業に対する民間（市民、企業、NPO）との役割分担や市の関与の仕方は適切か？ 税の賦課業務という性質上、市が直接執行する必要があることから、他の事業主体は考えられない。 |

↓ Action

◆改善提案◆

| 新規に実施する事務事業名 | 事業の概要 | |
|---|--|---|
| | | |
| <p>表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、◎、○、△、▲を選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 各種協議会等負担金を「◎」とした理由は、令和7年度（令和8年度分の申告）から住民税の電子申告が開始するなど、地方税共同機構等との連携が重要であり今後も負担金額の増額が予想されるため。 税務職員研修事務を「○」とした理由は、適正な課税処理を行うためには、研修会へ参加し、職員の税知識の蓄積、向上を図る必要があるため。</p> | | |
| 改善のため休廃止する事務事業名 | 休廃止する理由 | |
| | | |
| 改善の方向性（具体的な改善提案）を記述（改善内容、始期、終期等） | | |
| <p>予算を伴わない短期的（1～2年）に取り組む改善提案</p> | <p>今後もエルタックスの普及を進め、市民等の利便性向上と窓口混雑緩和を図り、申告、相談を受けやすい環境を整えていく。 電子と紙が混在していることで事務が煩雑になっているが、令和7年12月から運用が開始される基幹システムの標準化により改善されると考える。引き続き、事務処理の効率化を図る。</p> | <p>5年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) 今後もエルタックスの普及を進めつつ、住民が窓口での申告、相談を受けやすい環境を整えていく。 一方で、電子と紙が混在していることで事務が煩雑になっており、事務処理の効率化を図る。</p> |
| | | 改善状況 △ |
| <p>予算を伴う短期的（1～2年）に取り組む改善提案</p> | <p>引き続き、税のスペシャリスト育成のため研修会や勉強会に積極的に参加する。 令和8年度分の市県民税から導入されるエルタックスの市県民税電子申告の活用を市民に周知し、市民等の利便性向上と窓口混雑緩和を図る。 また、市県民税申告受付の混雑緩和のため、LINEによる申告受付予約システムを検討する。</p> | <p>引き続き税のスペシャリスト育成のため研修会や勉強会に積極的に参加する。 住民税電子申告の導入により、市民等の利便性向上と窓口混雑緩和を図る。</p> |
| | | 改善状況 ○ |
| <p>中長期的（3～5年）に取り組む改善提案</p> | | <p>国等が進めるシステム共通化について、動向を注視して迅速な対応をとる。</p> <p>標準化システム令和7年12月稼働予定</p> |
| 行政改革大綱推進項目 | | |
| 6-1-(3) 行政のデジタル化 | デジタル化導入数 | 件数 1 |
| | | 7-1-(1) 事務及び人事の効率化・適正化 |
| | | PPP・PFI・包括外部委託等導入数 |
| | | 件数 0 |
| 改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー これらの取り組みを行うことにより、職員の事務負担の軽減、課税の公平性及び住民の利便性の向上を図る。 | | |

| | | |
|----------------------|-------|----------------------|
| 基本事業執行責任者 (担当課長名) | 井上 和夫 | 電話番号 0494-22-2209 |
|----------------------|-------|----------------------|

| | | | |
|---------|------------|-------|---------------|
| 基本事業コード | 03050001 | 担当課所名 | 資産税課 |
| 基本事業名 | 固定資産税等賦課事務 | | |
| 総合振興計画 | 分野 | 7 | 行財政運営 |
| | 政策 | 2 | 財政運営 |
| | 施策 | 1 | 健全な財政運営・FMの推進 |
| | | | 総合振興計画 67 ページ |

| | |
|---------|-------------------------------|
| 基本事業の概要 | 市内に存在する土地・家屋・償却資産に対し適正な課税を行う。 |
|---------|-------------------------------|

| | |
|----------------------|-------------------------------------|
| 対象 | 固定資産税・都市計画税納税義務者 |
| 意図 (対象をどのようにしたいか) | 科学的手法を用いた資産評価を行い、固定資産税の公平且つ適正な課税を行う |

| 基本事業指標 | 指標の算式 | 種類 単位 | 5年度 | 評価年度(6年度) | | 8年度 | 他団体の指標(数値) |
|-------------|-------|------------|-----------|-----------|-----------|-----|------------|
| | | | 過年度実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | |
| 固定資産税当初課税総額 | | 成果指標 千円 | 4,629,742 | - | 4,591,986 | - | |
| 都市計画税当初課税総額 | | 成果指標 千円 | 319,909 | - | 317,892 | - | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

| 枝番号 | 事務事業名 | 指標 | | | 目標値(上段) | 種類 単位 | 事務事業評価 8年度以降の 事業の方向性・ コスト・成果 | 重点化 |
|--------------------------|--------------------------------------|------------------------|-------------|------------|------------|----------|---------------------------------------|-------|
| | | 5年度決算額 | 6年度決算額 | 7年度予算額 | 実績値(下段) | | | |
| 01 | - 固定資産税課税処理業務 | 指標:固定資産税・都市計画税納税通知書発送数 | 2,380,798 | 2,436,640 | 3,416,000 | 28,620 | 通 | 維持:維持 |
| 02 | - 土地・家屋・償却資産等評価事務 | 指標:家屋調査実施棟数 | 1,017,656 | 1,042,666 | 1,137,000 | 256 | 棟 | 維持:維持 |
| 03 | - 標準宅地時点修正委託業務 | 指標:時点修正標準宅地数 | 4,669,808 | 4,669,808 | 4,670,000 | 423 | 地点 | 維持:維持 |
| 04 | - 土地等評価替え業務 | 指標:地番図修正・座標修正数 | - | 22,887,700 | 21,670,000 | 1,616 | 筆 | 維持:維持 |
| 05 | 公図修正業務委託業務 | 指標:公図修正筆数 | 814,000 | 877,800 | 1,019,000 | 818 | 筆 | 縮小:維持 |
| 06 | - 固定資産税還付金処理業務 | 指標:還付件数 | 1,521,600 | 8,371,050 | 4,000,000 | 30 | 件 | 維持:維持 |
| 07 | - 固定資産税関係証明書発行事務 | 指標:証明書発行件数 | 0 | 0 | 0 | 5,054 | 件 | 維持:維持 |
| 08 | - 航空写真撮影及び家屋経年異動判読等委託業務 | 指標:航空写真図作成撮影範囲 | 17,050,000 | 9,240,000 | 10,420,000 | 99.36 | km ² | 維持:維持 |
| 09 | | 指標: | | | | | | |
| 10 | | 指標: | | | | | | |
| 11 | | 指標: | | | | | | |
| 12 | | 指標: | | | | | | |
| 13 | - 標準宅地鑑定評価委託業務(令和7年度実施事業) | 指標:鑑定評価標準宅地数 | - | - | 22,550,000 | - | 地点 | |
| 14 | - 土地評価システム業務委託業務(令和6年度から枝番号04に事業名変更) | 指標:地番図修正・座標修正数 | 34,430,000 | - | 0 | - | 筆 | |
| (参考) 最終予算額(円) | | | 65,036,000 | 50,245,000 | | | | |
| 事業費の合計(円) (A) | | | 61,883,862 | 49,525,664 | 68,882,000 | | | |
| 財源内訳 | 国庫支出金 | | | | | | | |
| | 県支出金 | | | | | | | |
| 正規職員 | 業務量 | 10.00人 | 9.07人 | | | | | |
| | 人件費(B) | 58,860,090 | 6,138,371 | | | | | |
| 会計年度任用職員(事業費に含む) | 業務量 | | | | | | | |
| | 人件費 | | | | | | | |
| 事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B) | | | 120,743,952 | 55,664,035 | | | | |

【重点化欄】
 評価時点以降の事業の方向性から
 ◎:特に重点化必要事業(1つ以内)
 ○:重点化必要事業(1つ以内)
 △:劣後化可能事業(1つ以内)
 ▲:特に劣後化可能事業(1つ以内)

| | | | | | |
|--------|-----------|----|----|----|----|
| 成果の方向性 | 拡充 | 維持 | 縮小 | 休止 | 完了 |
| | × | × | × | × | D |
| | C,B | B | C | × | × |
| | × | × | × | × | × |
| | 完了 | 完了 | 完了 | 完了 | 完了 |
| | 皆減 | 縮小 | 維持 | 拡大 | |
| | コスト投入の方向性 | | | | |

◆評価◆

| | |
|-------------------|--|
| 評価の視点 | 左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 |
| 基本事業指標の分析 | 基本事業の「意図」を適切に数値化した指標になっているか？目標値の設定は適切か？また、実績値をどう考えるか？ 本事業は、適切な資産評価を行ったうえで、固定資産税・都市計画税を算出し、課税する事業である。当初課税総額は1年間の資産評価の成果でもあるので、基本事業指標として設定することは適切である。当初課税金額が減少した理由は、評価替えによる既存家屋の減価や新規の償却資産の減少による減額が影響したと考えられる。 |
| 基本事業を構成する事務事業の妥当性 | 基本事業の「意図」を達成するため、事務事業は必要な事業のみか？（過不足がある場合は、改善提案に記載する。） 基本事業の意図を達成するためには「専門的知見に基づく不動産評価」「適正な資産評価のための評価技術向上」「納税通知書の確実な送達」が必要になっている。これらを達成するために必要な事務事業は上記8事業で過不足はない。※事業13は、3年に一回の評価替え次年度にのみ行う事業のため、次回は令和7年度に実施予定。 |
| 実施主体の妥当性 | 事業に対する民間（市民、企業、NPO）との役割分担や市の関与の仕方は適切か？ 評価・賦課事務は地方税法及び秩父市税条例等により、行政職員が事務を行うべきものであるため、市で行うことは適切である。また、事業03・04・08は専門的知見を持つ事業者に委託することにより、その事業の有効性が発揮されることとなるので、外部に委託することは適切である。事業05は、市保管の公図は法務局保管公図の複製であり、法的に保管する義務はないが、これまで、行政サービスの一環として申請者に写しの交付を行ってきたため、市民サービスを低下させることなく改善する方法を検討する。 |

◆改善提案◆

Action

| 新規に実施する事務事業名 | 事業の概要 | |
|---|--|--|
| | | |
| 表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、◎、○、△、▲を選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 前年に行われた分合筆等を市保管の公図に反映させる業務である。市保管の公図は法務局保管公図の複製であり、法的に必須のものではなく、予算をかけて修正する必要性は低い。しかし長年にわたり、申請者に写しの交付を行っているため、市民サービスを低下させることなく改善する方法を検討している。 | | |
| 改善のため休廃止する事務事業名 | 休廃止する理由 | |
| | | |
| 改善の方向性(具体的な改善提案)を記述(改善内容、始期、終期等) | 5年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) | |
| 予算を伴わない短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 固定資産税の課税方法について、わかりやすく説明できるよう、課税根拠となる資料等の適切な管理に努める。また、税制改正等に伴う会議や担当者研修会に出席し、税賦課業務についての知識を深め説明責任を果たせるよう心がける。 | 令和6年度は、評価替えの年に該当するため、評価の見直しにより税額が変更になった納税者からの問い合わせが多くなることが予想される。想定される問い合わせについて、市ホームページにまとめて掲載することで電話での問い合わせ件数を減らすよう心がける。課税方法について、わかりやすく説明できるよう、根拠資料等の適切な管理に努める。また、税賦課業務の知識を深め説明責任を果たせるよう心がける。 課税方法について、丁寧にわかりやすい説明を心掛け、課内で情報を共有し、共通認識を持ち対応にあたった。 また、税賦課業務の知識を深めるため、研修会(オンラインを含む)に積極的に参加した。 |
| 予算を伴う短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 償却資産の申告でエルタックスの普及を進め、申告書の郵送料削減を図る。 | 現状の業務を行うにあたり、予算の削減は難しいが、各種事務の見直しを行い、費用の削減ができる箇所を調査していく。 各種事務改善に努めたが、郵便料金等の値上げもあり、コストが増大し、費用の削減ができなかった。 |
| 中長期的(3~5年)に取り組む改善提案 | 次回令和9年の評価替えに向けて、土地評価替え業務や不動産鑑定評価事務を段階的に進めていくため、今後各年度における準備を遺漏なく行っていく。 | 次回令和9年の評価替えに向けて、土地評価システムの運用や不動産鑑定評価事務を段階的に進めていくため、今後各年度における準備を遺漏なく行っていく。 評価替えに向けて標準宅地鑑定評価のデータを基に土地評価替え業務にて必要な課税処理を実施した。 |
| 行政改革大綱推進項目 | | |
| 6-1-(3) 行政のデジタル化 | デジタル化導入数 | 件数 7-1-(1) 事務及び人事の効率化・適正化 |
| | 0 | PPP・PFI・包括外部委託等導入数 |
| | | 件数 0 |
| 改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー 固定資産税の基礎となる土地・家屋・償却資産の正確な現況把握と調査の充実により、評価の効率化やプロセスの透明化に努め、より一層の適正化・均衡化を図り、公平・公正な賦課を行うとともに、住民に対して説明責任を果たすことで、固定資産税に対する納税者の理解と信頼を得ることができる。 また、このような姿勢が市行政全般に対する信頼を確保することにもつながると考える。 | | |

| | | |
|----------------------|-------|----------------------|
| 基本事業執行責任者 (担当課長名) | 肥土 英夫 | 電話番号 0494-25-6076 |
|----------------------|-------|----------------------|

| | | | |
|----------------------|----------|-------|---------------|
| 基本事業コード | 03060001 | 担当課所名 | 納税課 |
| 基本事業名 市税等収納事業 | | | |
| 総合振興計画 | 分野 | 7 | 行財政運営 |
| | 政策 | 2 | 財政運営 |
| | 施策 | 1 | 健全な財政運営・FMの推進 |
| | | | 総合振興計画 67 ページ |

基本事業の概要 市税等を徴収することにより、安定した自主財源を確保する。納税機会の拡充や口座振替の推進に努めるとともに、市民の税負担の公平性を保つため、滞納者と折衝し、滞納状況に応じて納税交渉や調査等を行い適正な処分を実施する。

対象 納税義務者
意図 (対象をどのようにしたいか) 市税等を公平に収納し財源を確保する。

| 基本事業指標 | 指標の算式 | 種類 単位 | 5年度 | 評価年度(6年度) | | 8年度 | 他団体の指標(数値) |
|-----------|-----------------|-----------|--------|-----------|-------|------|----------------------------|
| | | | 過年度実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | |
| 収納率 | 市税収入額/市税調定額×100 | 成果指標 % | 98.05 | 97.4 | 98.13 | 97.6 | 令和5年度県平均98.42 (R6.5末現在) |
| 現年課税分の収納率 | 市税収入額/市税調定額×100 | 成果指標 % | 99.43 | 99 | 99.4 | 99 | 令和5年度県平均99.36 (R6.5末現在) |
| 滞納繰越分の収納率 | 市税収入額/市税調定額×100 | 成果指標 % | 29.65 | 30.5 | 25.11 | 31.5 | 令和5年度県平均36.60 (R6.5末現在) |

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

| 枝番号 | 事務事業名 | 指 標 | | | 目標値(上段) 実績値(下段) | 種類 単位 | 事務事業評価 8年度以降の 事業の方向性 コスト:成果 | 重点化 |
|--------------------------|-------------|----------------|------------|------------|--------------------|----------|--------------------------------------|-----|
| | | 5年度決算額 | 6年度決算額 | 7年度予算額 | | | | |
| 01 | 現年課税分収納事業 | 指標:現年課税分収納率 | 15,539,640 | 21,005,955 | 24,731,000 | 99.4% | 維持:拡充 | ◎ |
| 02 | 滞納繰越分収納事業 | 指標:滞納繰越分収納率 | 0 | 0 | 0 | 30.5% | 維持:拡充 | ○ |
| 03 | 夜間・休日収納窓口事業 | 指標:夜間・休日窓口利用者数 | 0 | 0 | 0 | 229人 | 維持:維持 | |
| 04 | | 指標: | | | | | | |
| 05 | | 指標: | | | | | | |
| 06 | | 指標: | | | | | | |
| 07 | | 指標: | | | | | | |
| 08 | | 指標: | | | | | | |
| 09 | | 指標: | | | | | | |
| 10 | | 指標: | | | | | | |
| 11 | | 指標: | | | | | | |
| 12 | | 指標: | | | | | | |
| 13 | | 指標: | | | | | | |
| 14 | | 指標: | | | | | | |
| (参考)最終予算額(円) | | | 17,664,000 | 22,783,000 | | | | |
| 事業費の合計(円) (A) | | | 15,539,640 | 21,005,955 | 24,731,000 | | | |
| 財源内訳 | 国庫支出金 | | | | | | | |
| | 県支出金 | | | | | | | |
| 正規職員 | 業務量 | 9.77人 | 9.30人 | | | | | |
| | 人件費(B) | 59,978,432 | 57,086,850 | | | | | |
| 会計年度任用職員 (事業費に含む) | 業務量 | 2.17人 | 2.92人 | | | | | |
| | 人件費 | 4,603,654 | 8,239,928 | | | | | |
| 事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B) | | | 75,518,072 | 78,092,805 | | | | |

【重点化欄】
評価時点以降の事業の方向性から
◎:特に重点化必要事業(1つ以内)
○:重点化必要事業(1つ以内)
△:劣後化可能事業(1つ以内)
▲:特に劣後化可能事業(1つ以内)

| | | | | | | |
|--------|-----|--------------------------|---|-----|-----|---|
| 成果の方向性 | 拡充 | x | x | C,B | B,C | C |
| | 維持 | x | x | B | A | x |
| | 縮小 | x | x | C | x | x |
| | 休廃止 | x | D | x | x | x |
| | 完了 | D | x | x | x | x |
| 完了 | | 皆減 縮小 維持 拡大 コスト投入の方向性 | | | | |

◆評価◆

| | |
|-------------------|--|
| 評価の視点 | 左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 |
| 基本事業指標の分析 | 基本事業の「意図」を適切に数値化した指標になっているか？目標値の設定は適切か？また、実績値をどう考えるか？ 基本事業の意図を満たすため、各収納率を指標として設定した。社会情勢等により現年課税分の調定額は増減するため、市税収入額は指標としていない。目標値は従来の本市収納率をもとに、県平均に近づけるべく段階的な上昇を考慮したものである。引き続き県平均を目標とする設定は適切である。実績値は、現年課税分の収納率は減少したが、全体で見ると収納率が向上し、単年度目標を達成できた。日頃の徴収業務の努力が影響したと考えられる。滞納繰越分の収納率については、困難事案の割合が増え、目標値を超えることができなかった。 |
| 基本事業を構成する事務事業の妥当性 | 基本事業の「意図」を達成するため、事務事業は必要な事業のみか？(過不足がある場合は、改善提案に記載する。) 01・02については市の財政の根幹を成すものであり、03については日中・平日の来庁が困難な利用者に対して、01・02を適切に補完する事業であるため、全ての事務事業は基本事業の意図である「市税等を公平に収納すること」「財源を確保すること」を達成するために必要な事業である。 |
| 実施主体の妥当性 | 事業に対する民間(市民、企業、NPO)との役割分担や市の関与の仕方は適切か？ 地方税の徴収は、日本国憲法による租税法律主義の原則(84条)、地方公共団体の自主財源権(94条)に基づき、地方自治法第233条、地方税法第2条により「地方税を賦課徴収することができる」とされている。また、地方税法第3条(地方税の賦課徴収に関する規定の形式)により、秩父市税条例を制定し市税等収納事務を行っているものであり、一部事業を除き民間委託は難しい。 |

↓ Action

◆改善提案◆

| 新規に実施する事務事業名 | 事業の概要 | |
|--|--|---|
| | | |
| <p>表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、◎、○、△、▲を選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 令和7年度も埼玉県の方針として引続き、現年度課税分の徴収を重要視する旨の通知があり、本市についても埼玉県と同様に現年度課税収納事業を重点化する。現年度課税収納事業を重点化することにより、滞納繰越分の繰越金額を抑えられるという効果がある。</p> | | |
| 改善のため休廃止する事務事業名 | 休廃止する理由 | |
| | | |
| 改善の方向性(具体的な改善提案)を記述(改善内容、始期、終期等) | | |
| 予算を伴わない短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 秩父市版の分割納付取扱いモデル基準を運用し、分納相談を受けた際の対応の統一化を図る。 | 5年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) 埼玉県作成の分割納付取扱いモデル基準を参考に、分割納付に関する基準を作成し、分納相談を受けた際の対応の統一化を図る。 R6年度末までに、秩父市版の分割納付取扱いモデル基準を作成することができた。R7年6月から運営を開始する。 |
| 予算を伴う短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 預貯金等、電子化照会サービス「pipitLINQ」の契約に生命保険契約の有無についての照会も追加し、財産調査の効率化、迅速化を図る。 | 引き続き預貯金等電子化照会サービス「pipitLINQ」を利用し財産調査を行い、差押や執行停止など、速やかに着手する。 預貯金等電子化照会サービス(pipitLINQ)を利用し、財産調査の回答期限が短縮されたことで、差押や執行停止など、速やかに着手することができた。 |
| 中長期的(3~5年)に取り組む改善提案 | 高額滞納事案の早期解決のため、事案ごとに滞納整理方針を定め、納税折衝・財産調査にて担税力を見極め、滞納処分停止・差押財産の換価を進める。県・市による不動産共同公売などを実施し、差押不動産の換価処分に取り組む。 | 高額滞納事案の早期解決のため、事案ごとに滞納整理方針を定め、納税折衝・財産調査にて担税力を見極め、滞納処分停止・差押財産の換価を進める。県・市による不動産共同公売などを実施し、差押不動産の換価処分に取り組む。 高額滞納事案は、調査に基づいた執行停止を重点的に行うなど、県のアドバイザー制度を活用しながら適切な滞納整理を進めた。また、感染防止対策を徹底した上、必要に応じて市外にも足を延ばし調査・臨宅を行い、積極的な納税交渉を行った。令和6年度も不動産共同公売の事案は無かった。 |
| 行政改革大綱推進項目 | | |
| 6-1-(3) 行政のデジタル化 | デジタル化導入数 | 件数 |
| | | 0 |
| | | 7-1-(1) 事務及び人事の効率化・適正化 |
| | PPP・PFI・包括外部委託等導入数 | 件数 |
| | | 0 |
| 改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー | | |
| 滞納者への取り組みに対する効果は、市税を完納している納税者が、今後も不公平感を抱かず市税納付に協力いただけることである。 | | |

| | | | |
|----------------------|-------|------|--------------|
| 基本事業執行責任者 (担当課長名) | 原嶋 祐樹 | 電話番号 | 0494-22-2210 |
|----------------------|-------|------|--------------|

| | | | |
|-------------------|----------|-------|------------------|
| 基本事業コード | 03070001 | 担当課所名 | 契約課 |
| 基本事業名 契約事務 | | | |
| 総合振興計画 | 分野 | 7 | 行財政運営 |
| | 政策 | 2 | 財政運営 |
| | 施策 | - | (内部管理・市の裁量の無い事務) |
| | | | 総合振興計画 - ページ |

基本事業の概要
常に公平・公正な入札・発注ができるように心がけて業務を実施するとともに、地元企業育成のため、市内業者で不可能な案件でない限り、市内業者を優先に発注し、受注機会の向上を図る。また、埼玉県電子入札システムや契約管理システムを活用し、登録業者及び契約手続き等の管理を行い、適正な契約事務を行う。

対象 市で実施する発注・契約事業及び市職員・業者
意図 (対象をどのようにしたいか) 地元業者育成のため、地元業者への発注機会を確保した上で、公正・公平、迅速かつ適正に入札・契約を行う。

| 基本事業指標 | 指標の算式 | 種類 単位 | 5年度 | 評価年度(6年度) | | 8年度 | 他団体の指標(数値) |
|----------|--------------------|-----------|--------|-----------|-----|-----|------------|
| | | | 過年度実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | |
| 事務の適正執行率 | 適正事務処理件数 / 発注件数 | 成果指標 % | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

| 枝番号 | 事務事業名 | 指 標 | | | 種類 単位 | 事務事業評価 8年度以降の 事業の方向性・ コスト・成果 | 重点化 |
|--------------------------|-----------------|------------|------------|-----------|----------|---------------------------------------|-----|
| | | 5年度決算額 | 6年度決算額 | 7年度予算額 | | | |
| 01 | 契約管理事務 | 1,033,172 | 10,622,634 | 3,040,000 | | 拡大・拡充 | ◎ |
| 02 | 工事等入札契約手続事務 | 0 | 0 | 0 | 112 件 | 維持・拡充 | |
| 03 | 物品購入等契約手続事務 | 0 | 0 | 0 | 125 件 | 拡大・拡充 | ○ |
| 04 | 業者選定委員会開催事務 | 0 | 0 | 0 | 690 件 | 維持・拡充 | ○ |
| 05 | 工事入札参加登録業者管理事務 | 0 | 0 | 0 | 2,462 者 | 維持・拡充 | |
| 06 | 物品等入札参加登録業者管理事務 | 0 | 0 | 0 | 1,600 者 | 維持・拡充 | |
| 07 | | | | | | | |
| 08 | | | | | | | |
| 09 | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | |
| (参考) 最終予算額(円) | | 1,097,000 | 13,829,000 | | | | |
| 事業費の合計(円) (A) | | 1,033,172 | 10,622,634 | 3,040,000 | | | |
| 財源内訳 | 国庫支出金 | | | | | | |
| | 県支出金 | | | | | | |
| 正規職員 | 業務量 | 6.30人 | 6.31人 | | | | |
| | 人件費(B) | 37,081,857 | 38,733,121 | | | | |
| 会計年度任用職員(事業費に含む) | | | | | | | |
| 事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B) | | 38,115,029 | 49,355,755 | | | | |

【重点化欄】
 評価時点以降の事業の方向性から
 ◎: 特に重点化必要事業(1つ以内)
 ○: 重点化必要事業(1つ以内)
 △: 劣後化可能事業(1つ以内)
 ▲: 特に劣後化可能事業(1つ以内)

| | | | | | | |
|--------|----|----|-----|-----|----|----|
| 成果の方向性 | 完了 | 完了 | 皆減 | 縮小 | 維持 | 拡大 |
| 完了 | D | x | x | x | x | x |
| 縮小 | x | x | x | C | x | x |
| 維持 | x | x | B | A | x | x |
| 拡大 | x | x | C,B | B,C | C | |

◆評価◆

| | |
|-------------------|--|
| 評価の視点 | 左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 |
| 基本事業指標の分析 | 基本事業の「意図」を適切に数値化した指標になっているか？目標値の設定は適切か？また、実績値をどう考えるか？ 契約事務を進めるうえで、公平・公正、迅速かつ入札・契約を行うことが意図であるため、事務の適正執行率を指標としたことは妥当であると考え。 |
| 基本事業を構成する事務事業の妥当性 | 基本事業の「意図」を達成するため、事務事業は必要な事業のみか？（過不足がある場合は、改善提案に記載する。） 契約事務を進めるうえで、迅速かつ適正な入札・契約を行うこと、また、公平・公正な業者選定、そして、入札参加登録業者の管理は必要であるため、構成した事務事業に問題はないと考える。 |
| 実施主体の妥当性 | 事業に対する民間（市民、企業、NPO）との役割分担や市の関与の仕方は適切か？ 公共調達には市町村の責務であり、入札、契約事務の制度上、発注者側しか知りえない項目、内容もあり、市が発注する建設工事、物品購入等の契約業務は、他の団体で行うことは極めて難しい。こうしたことから、公共調達に係る契約事務は、それぞれの地方公共団体でしか進められない事務である。 |

↓ Action

◆改善提案◆

| 新規に実施する事務事業名 | 事業の概要 | |
|--|--|--|
| | | |
| 表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、◎、○、△、▲を選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 | | |
| 枝番01事業について、令和8年度以降の埼玉県資格審査・入札等のシステムの改修に対して、市の事務の見直しやシステム改修が必要となる可能性があり、対応を検討するため重点化した。枝番03事業については、R7年度から資格申請が県の共同受付へ移行したことから、物品等の発注業務が電子入札システムを利用して行うことが可能となった。今後、このシステムを活用して入札を行えるよう準備を進めて行く必要があることから重点化した。枝番04事業については、03事業の発注業務の検討に際して、選定委員会による意見聴取や意識統合が必要となることから重点化した。 | | |
| 改善のため休廃止する事務事業名 | 休廃止する理由 | |
| | | |
| 改善の方向性(具体的な改善提案)を記述(改善内容、始期、終期等) | 5年度左欄に記入した改善提案(上)とその実施状況(下) | |
| 予算を伴わない短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 物品購入等の入札事務の電子化を検討していく。現状は、電子入札に必要なICカードを所有する業者数が限られているため、今後、周知を図り、ある程度の業者数を確保できる段階になったら、試行を経て開始していきたい。また、随意契約を可能とする金額が今年4月に引き上げられたことに伴い、担当課における実施案件の金額引上げをマニュアルを整備して実施したい。 | 担当課の物品購入について、権限の拡大(購入金額の引き上げ)による問題がみられないため、再検討する。また、入札参加申請が県との共同受付へ移行することに伴い、従来担当課で実施してきた業務委託の一部を契約課で実施可能かを検討する。公共工事の施工の時期の平準化に関する取組(債務負担行為の活用、柔軟な工期の設定等)について、他自治体の新たな取組を参考にしながら、秩父市でも取り入れられる取組を検討していく。 担当課の物品購入の権限拡大は現状未実施であるが、地方自治法施行令の一部改正により、今後権限の拡大を実施する予定である。業務委託の一部を契約課で実施するかは引き続き今後の検討が必要である。平準化の取り組みについては、ゼロ債務負担行為の活用や積算の前倒し等により、早期の発注を心がけている。 |
| 予算を伴う短期的(1~2年)に取り組む改善提案 | 令和9・10年度の入札参加資格申請を見越して令和8年度以降、県のシステム改修が予定されている。それに伴い、市のシステム改修も必要となる可能性があるため、情報収集を怠らず、必要な措置を講じて行く必要がある。また、電子契約システムの導入に向けて、検討を進める。 | 物品の入札参加資格申請について、R7年度から県の共同受付に移行するため、大幅に審査事務が改善される見込みとなる。それに伴い、物品・役務においても工事と同様に電子入札の導入が可能な状態となるため、今後試験的な運用を行いながら、本格導入を目指していく。 県の共同受付に移行したこと及び押印廃止により、審査事務の負担が軽減できた。物品・役務の電子入札については、業者のICカードの取得状況等を確認しながら、実施を検討していく。 |
| 中長期的(3~5年)に取り組む改善提案 | 県のシステム改修も見据え、将来的には市に来庁せず、契約手続等が可能となるようにDXを推進したい。 | 県では電子契約の本格導入を開始したため、秩父市でも導入の可能性を検討していく。導入によるメリット・デメリットを検証しながら、秩父市に最適な方策を研究していく。 電子契約を導入している他自治体への視察等を行い、導入に向けて検討を行った。システムの仕様の一部不足する部分があったため、導入についてはその不足部分に対する適用及び庁内の電子決裁等の状況を注視しながら、検討を進めていく。 |

| 行政改革大綱推進項目 | | | | | |
|------------------|----------|----|------------------------|--------------------|----|
| 6-1-(3) 行政のデジタル化 | デジタル化導入数 | 件数 | 7-1-(1) 事務及び人事の効率化・適正化 | PPP・PFI・包括外部委託等導入数 | 件数 |
| | | 1 | | | 0 |

改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー
 県と共同で入札参加資格申請の受付を実施することにより、工事と同様に電子入札が可能となったが、電子入札を実施するためには業者の有料ICカード取得等課題が残るため、電子入札への移行は時期や方法等検討を要する。また、電子契約の導入が実現すれば、窓口に来庁することなく契約手続きが可能となり、業者にとって事務の効率化が図れる。

| | | | |
|----------------------|--------|------|---------|
| 基本事業執行責任者 (担当課長名) | 浅香 恵里子 | 電話番号 | 25-5216 |
|----------------------|--------|------|---------|